

はじめに

本書は、医療・福祉系の大学・専門学校の基礎・専門教育や、学部学科専攻を問わず一般（共通）教育のテキストとして使用されることを目的に作成されている。

将来、医療福祉関係の職に従事する学生にとって、臨床（医療施設、介護福祉施設、地域・在宅）の現場で日々起こっている出来事について、それぞれの背景・原因・問題点、さらには対処法・予防・対策など、学ぶべきことは膨大であり、それらの知識は患者・サービス利用者やその家族になる可能性のあるすべての学生にとっても有益であると言えるだろう。

また、医療・医学の進歩のための営み（研究活動・臨床実践）に要請されるルール（研究倫理・研究公正）、少子高齢化、医療福祉財政の逼迫、経済格差などの社会状況を踏まえた公共政策としての医療福祉（健康・保健・公衆衛生）のあり方、さらにはゲノム・遺伝子、再生医療、脳科学、ロボットなど先端医療技術の進展などに関するリテラシー（情報を読み解く力）は、この時代を生きる上で必須である。

近年、高等教育において一方的な講義形式ではなく受講者が能動的に参加するタイプの授業（アクティブ・ラーニング）が推奨され、各教育機関においても取り組みが進められている。ディベートやグループワークなど様々な形態が試みられているが、本書では〈問と応答〉という形でそのための素材を提示している。生命倫理の多くのトピックが異なる価値観に基づいた意見の相違・対立を伴うものであることを踏まえ、各章における主な論点を〈問〉として設定し、それに対する〈応答〉が想定可能な複数の選択肢として示される。受講者はそれぞれの妥当性・根拠を吟味した上で自分自身の見解を明確化し、それを文章化ないし口頭発表（プレゼンテーション）へと展開することが促される。

執筆者一同、本書が生命倫理を学ぶ人に意義あるものとなることを祈念している。

2018年1月

霜田 求